

平成25年度

県立水戸第三高等学校自己評価表

目指す学校像		豊かな教養に充ち、心身ともに健やかで主体的に社会に貢献できる人材を育成する学校								
昨年度の成果と課題		本年度の重点項目		重点目標		達成状況				
<p>1 総合的にみて本校の教育方針は、適切に達成できていると思われるが、さらに規範意識や自律的態度を高める必要がある。</p> <p>2 教職員は自己の使命、責務をよく理解し、その達成に向けて努力している。さらに、学校を一つの組織体とする機能的な運営を目指す必要がある。</p>		・授業の質的向上と家庭学習時間の確保		・授業の重要性を生徒に理解させるとともに、学習内容の定着に結びつく授業の工夫・改善と始業ベルと同時に授業開始の習慣づくりに努める。 ・主体的な学習のために、予習を柱として授業が復習となるような自宅学習の習慣化の指導に努める。		B				
		・進路目標の早期決定と進路実現		・生徒に職業を含めた自己の将来を意識させるとともに進路シラバスを明示し、その実現のための進路選択に繋がる指導に取り組む。 ・個別面談、学年PTA、保護者面談を通して、生徒及び保護者への進路意識の高揚を図る。						
		・基本的生活習慣の確立と生活態度の涵養		・制服の着こなしを良くし、元気な「あいさつ」を徹底して集団の一員としての生活態度を確立させるとともに、生徒との心の触れあいに努める。 ・学校全体で5S(整理・整頓・清掃・清潔・習慣付け)に取り組み、教育環境の整備に取り組み。						
		・部活動・特別教育活動の充実		・文武不岐の精神のもと、部活・進学の両立を図り、各大会での上位入賞を目指す。 ・ホームルーム、生徒会活動、学校行事等の活性化に努める。						
		・広報活動の推進		・HPや「ほっとご三高」を活用して、本校の教育活動の取り組み状況や成果、特色等を積極的に情報発信し、地域住民や保護者の本校に対する理解と関心の高揚に努める。 ・各中学校の説明会に積極的に参加して広報活動に努める。						
評価項目		具体的目標		具体的方策		評価	総合評価	次年度への主な課題		
教科指導		1年については基礎学力の定着をはかり、2、3年は、基礎学力をさらに発展させ、大学入試等自分の目標実現に対応できる応用力・実践力を身につけさせる。		・家庭学習時間の確保、積極的な授業の取り組み、疑問点の解消、将来の目標を見据えた学習計画の実践をすすめる。 ・早期、SHR、昼休み、放課後等の時間を利用して小テスト、課外授業、質問時間の機会を設け、学力の養成を図る。 ・曜日バランスを考慮し、授業時間を確保する。 ・インタラクティブフォーラムやプリティッシュヒルズでの英語研修など国際理解に関する活動に積極的に参加する。		B	A	・家庭学習時間を確保するための具体的な手立てについて、各教科・各学年・進路指導部で具体的に協議する。あわせて生徒に主体的に家庭学習に取り組ませるために目的意識を高める方策についても協議する。		
		自らの目標を立て、目標を達成するために努力する生徒を育成する。		・英検・漢検・家庭技術検定等を実施し、合格者数を伸ばす。 ・声楽・ピアノ・管楽器・日本音楽の各公開講座を実施し、生徒の技術向上と、向上心の育成を図る。 ・学習環境の美化に努め、住み良いホームルームをつくる。		A A A B				
		国語		基礎学力の向上を図る。		・小テストを利用し、基礎学力の定着を図る。 ・理解の不十分な生徒には補習を実施する。			A B	
				家庭学習習慣の定着に努める。		・週末課題を利用し家庭学習の習慣をつける。 ・予習・復習に積極的に取り組ませる。			A B	
地歴公民		生徒の進路の希望に対応できる学力の充実に努める。		・副教材、プリント学習による積極的効果的な授業を展開する。 ・長期休業中だけでなく、早朝や休日課外等で基礎学力の充実とともに問題演習に取り組む。		A B	B	・有用な視聴覚教材を教員間で共有し、積極的な導入を図る。生徒の興味を喚起する効果的な発問の工夫に努める。		
		生徒の社会認識を深めさせるために、授業の研究と実践に努める。		・新聞、映像教材、インターネット等を積極的に活用する。 ・発問等の工夫により、興味関心を喚起する授業に努める。		B B				
		歴史・社会・文化に関する興味や認識を高めるための工夫する。		・修学旅行の事前学習としては、日本史・地理・現代社会等の授業において沖縄についての学習を行う。		A				
数学		基礎学力の向上を図る。		・単元テストを実施して生徒の理解度を定期的に把握する。 ・理解度の不足する生徒には再指導を実施する。		A B	A	・新課程入試への指導対応に努める。		
		家庭学習の定着に努める。		・課題を定期的に点検し、家庭学習の習慣をつける。 ・課外を実施し、興味関心を持続させ高いレベルまで到達させる。		A A				
		基礎学力があり、数学に対して興味関心の高い生徒に対しては、さらに理解度を高める指導をする。								
理科		自然科学に対する興味関心を喚起する。		・実験、資料等の活用により授業を展開し、健全な自然観を持たせる。		A	A	・新課程入試への課外も含めた対応に努める。		
		基礎学力の定着を図る。		・授業時の質問、小テスト等を利用して学習の理解度を確認する。 ・学習内容の定着のため、放課後質問の時間を設ける。		A A				
		生徒の進路希望実現を図る。		・問題集の活用及び課外の実施により、大学受験等に相当する実力養成に努める。		A				
保健体育		体力の向上(身体能力)を図る。		・体力テストの結果を利用し、基礎体力の向上を図る。		A	A	・各学年の体力テストの結果を元に、体力の向上を図る。 ・日常生活から健康を意識させる。		
		生涯スポーツにつながる、知識や運動の習慣を身に付ける。		・実技テストに加え、ルールテストを行い、それらを利用し競技の特性に触れさせ、積極的に運動に親しむ態度を養う。		B				
		心身の健康の保持増進を図る。		・定期考査を実施し、※ヘルスプロモーションの理念を理解させる。(※自らの健康をコントロールし改善できるようにする活動)		A				
音楽		よい発声法で楽曲のイメージを生かし表現する。		・腹式呼吸、発声法等の基本を身に付けさせる。		B	A	・教材研究をより発展させ、興味関心を持たせる。		
		音楽文化についての理解を深め豊かな表現能力を伸ばす。		・読譜力を身に付けさせ芸術歌曲の歌詞、曲想を理解させ個性豊かな表現が出来るようにする。		B				
		芸術活動を通して豊かな情操を養う。		・楽器(ギター・リコーダー・ハンドベル等)の奏法を習得しソロ及びアンサンブルの楽しみを体感する。また箏・三味線をととして日本音楽の特長をとらえる。		A				
芸術		美術を学習する意義と基礎技術向上に努める。		・用具用材に対する意識を持たせる。 ・全体指導及び個別指導を行いきめ細かな指導を行う。		A B	B	・鑑賞では、生徒どおして話し合いができるようにする。また、自分の考えをみんなの前で話せるようにする。		
				・自分の作品を大切にさせる。 ・作品提出の徹底を図る。 ・積極的に展覧会を鑑賞する。		B B B				
		創作に対する興味を持たせ個性の伸長を図る。		・感性を豊かにするためにそれぞれ美術、書道の分野だけでなく音楽・書道的内容を取り入れて興味を持たせる。 ・作品を大切にすることを養う。		B A				
				・用具用材に対する意識づけを行う。 ・全体指導及び個別指導を行いきめ細かな指導を行う。 ・作品整理ノートを十分に活用する。 ・作品提出の徹底を図る。 ・積極的に展覧会を鑑賞する。		A A A B				
書道		古典学習の意義と基礎技術向上に努める。		・用具用材に対する意識づけを行う。 ・全体指導及び個別指導を行いきめ細かな指導を行う。 ・作品整理ノートを十分に活用する。 ・作品提出の徹底を図る。 ・積極的に展覧会を鑑賞する。		A A A B	A	・鑑賞の大切さを理解できるようにする。また、自分の眼を通して作品と向き合う習慣をつけさせる。		
				創作に対する興味を持たせ個性の伸長を図る。		・感性を豊かにするためにそれぞれ美術、書道分野だけでなく美術的内容を取り入れて興味を持たせる。 ・作品を大切にすることを養う。			B A	

評価基準：A(達成できた)、B(だいたい達成できた)、C(達成できなかった)の3段階

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	総合評価	次年度への主な課題
教科	英語	基礎学力の向上定着を図る。	・小テスト、週末課題の実施により、学習の理解度を把握する。 ・学習内容の定着の為に質問の時間を設ける。	A B	A	・今年度センター演習の早期実施に効果があった点や英検の2次指導など良かった事を継続しさらなる改善に努める。 ・アウトプット活動を充実させるための方策を検討し実施する。
		外国語の学習を通じて自国の文化等に対する理解を深める。	・テキストや副読本を読むことにより、文化の違いを理解させる。 ・ALTの先生の授業等を通じて、習慣の違いを学ぶ。	A A		
		自分の考えを積極的に発表しようとする事に努める。	・スピーチ・コンテストへの参加を積極的に促し、英語を話し理解しようとする態度を養成する。 ・各種検定試験(英検、TOEIC)への参加を促す。	B A		
		より高い目標に近づくために努力させる。	・大学入試におけるリスニングテストへの対応のために授業の中にリスニング教材を位置付ける。	A		
	家庭	家庭生活を主体的に営む態度を育てる。	・生活に必要な知識と技術を習得させるための教材を検討し授業に生かす。 ・ホームプロジェクトの実践をさせる。	A A	A	・言語活動を充実させコミュニケーション能力を身につけさせる。 ・実習や体験の充実を図る。
		体験学習を取り入れる。	・実験実習を数多く導入し、まとめとしてのレポート提出をさせる。また、発表会を行う。 ・体験学習を取り入れる。	A A		
		資格に挑戦させる。	・将来の進路に結びついて資格を取らせる。	A		
		情報機器の基本操作を身に付ける。	・受講者全員がブラインドタッチで入力できるようにする。 ・ネットワーク上のプリンタやドライブを利用できるようにする。	B B		
	情報	基本的なソフトウェアの操作法を身に付ける。	・ワードプロセッサ、表計算ソフトウェア、プレゼンテーション等のアプリケーションソフトウェアの操作ができるようにする。	A	B	・情報機器の操作は十分身に付いてきているので、ワープロ検定等への参加を呼びかけていく。
		ネットワークに参加し、利用する知識や技法を習得する。	・ネットワークを利用する上での注意事項や法律を知り、守れるようにする。 ・WEBブラウザを操作し、検索できるようにする。	B A		
		各部、各学年及び各教科が効率的に機能するように連絡、調整を図る。	・生徒の欠席遅刻早退に関する情報の共有化を図る。	B		
		学校行事を精選し、その効率的運営を期するために、全職員の共通理解を図る。	・年間行事計画どおりの学校教育活動を行う。 ・行事等の能率的運営を図る。	A A		
教務	授業時数の確保を図る。	・教育課程の具体的検討、諸課題に関する研究の推進を図る。(IT活用の推進を含む) ・生徒の希望進路実現にかなう教育課程を編成する。	A A	A	・生徒情報の共有化を図る。 ・教育課程の研究推進を図る。 ・情報収集を効率的に実施できるようなルールを作って、HPやほっとご・三高に載せる内容を充実させる。	
	教育課程を円滑に推進する。		A			
	部活動などを通じて、学校を活性化させる。	・運動部・文化部それぞれ3部以上で全国大会・国体・関東大会出場を目指す。 ・対外試合等を積極的に行い、技術の向上を図る。	A A			
	生徒会を中心にして、生徒間の連帯感を強め、生徒の意識高揚を図る。	・LHRを有効に活用して、クラス独自の活動を充実させる。 ・生徒会活動の円滑な運営を支援する。 ・各種委員会の活動を掌握し、学校行事や事業を活性化させるとともに、本校生としての意識を高める。 ・あおい会館の管理運営を適切に行う。 ・生徒の利用しやすい購買部の運営につとめる。	A A A A A			
特別活動	生徒一人一人が生きる力の自己形成を図り、高校生としての自覚の養成に努める。	・高校生としての基本的生活習慣、善悪の判断能力、規範意識を学校生活を通して育成する。 ・HRや授業及び個人面談等を通して、望ましい人間関係の構築に努める。	A B	B	・校外外において、モラルや規範意識を高め、三高の一員としての自覚と誇りを持たせる指導を工夫する。 ・家庭との連携を図りながら、積極的に保護者の協力を得られる体制を整える。	
	教職員間の共通理解を深め、共通の指導体制を構築する。	・家庭との連携や教職員間の連携など連絡指導態勢を速やかにすすめる。 ・年度始めにおける内規等の周知を図り、その後の指導を全職員のもと円滑にすすめる。 ・生徒の実態把握(被害・意識調査・アルバイト、交通関係等)につとめ、問題行動の防止に努める。	A B B			
	保護者との連携、情報交換による協力関係を構築する。	・新入時における保護者への本校規定等の説明を通して、協力の依頼に努める。 ・PTA総会及び各学年保護者会合等において、積極的に生徒の実情の報告、意見交換を通して、協力の依頼に努める。 ・生徒指導に関わる研修会等への参加及び保護者への協力依頼を通して、家庭教育力の向上に努める。 ・保護者へ定期的に学校の生活状況を知らせ、改善のための協力を依頼する。	A B B B			
	外部関係機関との連絡を密にし、不審者等の侵入防止に備えた危機管理の構築を図る。	・水戸署管内高校連絡協議会や青少年センター相談所等との連携を密にし、問題解決に速やかに対処する。 ・近隣小中高校との緊密な情報交換により、不審者等の把握に努め、問題の未然防止に努める。 ・学校周辺の住民との対話協力を図り、問題行動の改善や、不審者等の未然防止に努める。	B B B			
	生徒理解へのカウンセリングマインドの醸成と生徒支援の体制の充実を図る。	・カウンセリングマインド研修会等を通して、生徒理解を深め、生徒指導の改善に努める。	B			
	生徒の進路希望の実現を図る。	・面接等を通して、生徒の状況把握に努め、効果的指導に努める。	B			
	学年・保護者との緊密な連携を図る。	・生徒の進路希望に応じた授業・課外を実施し、生徒の意欲を引き出す。 ・進路相談の充実を図る。	A B			
	効果的な小論文指導を検討する。	・各学年に応じて、進路に関する保護者会の充実を図る。 ・進路等における情報等を正確に提供し、保護者との信頼関係を深める。	B B			
	進路に対する意識の高揚を図る。	・生徒の進路希望に合った指導方法を検討・調整する。 ・各学年に応じた進路行事(大学見学会、大学模擬授業、進路講演会)を実施し、生徒の意識を高める。 ・インターンシップ(看護師体験など)を活用し、進路に対する意識を高める。	A A A			
	進路情報の充実を図る。	・インターネットの活用をすすめ、進路指導室の整備拡充を図る。 ・進路の手引きを作成し、その効果的な活用を進める。 ・定期的な進路希望調査を実施し、生徒の実態把握に努める。	B B A			
進路指導	保健管理・指導を徹底し、健康保持増進を図る。	・定例の健康診断の他に、保健室来室生徒の観察指導の充実を図る。 ・「保健講話」、「保健だより」等による健康管理予防の啓発に努める。 ・校内美化に努め、清掃活動の徹底を図る。	A A B	B	・本校にある、進路に関して有効な資料をフルに活用して、全職員が協力しながら生徒への進路指導に当たる。	
	心的問題によりクラス等での通常の授業を受けることが困難な生徒に対し、クラス等への復帰支援を図る。	・教育相談委員会の役割と早期対応の一層の充実を図る。 ・これまでの事例を基に必要に応じ「別室登校規定」の修正を加える。	B B			
	保健(健康)管理・指導		A			
	教育相談		A			

評価基準:A(達成できた)、B(だいたい達成できた)、C(達成できなかった)の3段階

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	総合評価	次年度への主な課題
図書	図書館の利用を促進し、書籍の管理につとめる。	・図書館だより、新着図書案内を定期的に出し、情報提供をする。	A	A	・新図書館の施設整備を、さらに充実させる。
		・アンケート等で生徒・職員の購入希望をとる。	A		
	館内環境を整え、快適な読書空間と学習の場を提供する。	・未返却図書への催促を定期的に行い、図書利用の回転率を上げる。	A		
		・各教科の専門的意見を取り入れ、蔵書・各種資料の整理に努める。	A		
		・館内を常時清潔に保ち、読書や学習する環境を整える。	A		
	図書委員会の活性化を図る。	・居残り学習や長期休業中に開館し、生徒が利用できるようにする。	A		
	視聴覚機器の整理と拡充に努める。	・図書購入・カウンター当番・読書会等に積極的に参加させる。	A		
放送委員会の活性化と定着を図る。	・現在あるものを整理し、古いものは新しい物と入れ替える。	A			
情報	校内LANの安全性を高めて利用の促進を図る。	・技術指導等のサービスを意欲的に行う。	B	A	・校内ネットワークのより一層の活用を図る。
		・各種行事に伴う放送関係の仕事に積極的に関わらせる。	A		
	情報活用能力や情報モラルの向上を図る。	・アナウンス講習会等に積極的に参加させる。	A		
	広報活動に協力する。	・セキュリティ対策を行い安全性を高める。	A		
渉外	PTA総会の保護者の出席率を向上させる。	・共有しているプリンタやファイルの維持管理を行う。	A	A	・総会の日程がスムーズに運ぶよう、保護者・教員間の連携を図る。さわやかコンサート前の部活紹介を今後も取り入れていく。
		・生徒の個人情報漏洩等の事故防止を図る。	A		
音楽科	公開レッスンを実施し、生徒の技術向上と向上心の育成を図る。	・生徒については、教科情報や家庭情報処理の授業と連携する。	B	A	・他教科との連携をいっそう図り、生徒指導・進路指導に役立てる。
		・ウェブページ(ホームページ)を活用する。	A		
	校外活動としてのボランティア演奏の充実を図る。	・成績処理ソフトの改良を行う。	A		
	音楽科にふさわしい進路指導の実現を目指す。	・日程や授業参観のあり方を工夫する。	A		
家政科	生徒の技術向上のため、資格取得の充実を図る	・PTA総会の内容を工夫し、効率的運営を図る。	B	A	・資格取得の合格率をアップさせる。 ・各種コンクールでの上位入賞を目指す。 ・地域との連携を継続し、社会に貢献できる人材の育成を図る。
		・PTA各種委員会の活性化を図る。	A		
	校外活動への積極的な参加を図る。	・保護者の意見要望を検討し、広報紙などを通してその対応を図る。	A		
1学年	基本的な生活習慣を確立させ、集団生活のマナーを身につけさせる。	・学校説明会の内容をより充実させ、生徒募集や広報活動に役立てる。	A	A	・生活習慣の確立はほぼできているが、学習面特に家庭学習時間の確保について課題がある。また、進路について具体的な目標が決まらないままの生徒が多いことから、面談やガイダンス等のより一層の充実を図る。
		・ピアノ・声楽・管楽器・日本音楽の分野で年に3～4回実施し生徒一人一人に向上心を持たせる。	A		
	学習習慣を確立し、基礎学力を確実に身につける。	・各種コンクールへの参加を促す。	A		
	自己の可能性を探りながら卒業後の進路についての目的意識をもたせ、後悔しない文理選択および進路選択ができるように指導する。	・3年間の集大成である卒業演奏会を成功に導く。	A		
2学年	集団の一員としての自覚を持たせ、集団生活のマナーを身につけさせる。	・病院、老健施設、中学校等への出前演奏を行い、外部との交流を図りボランティア活動を充実させる。	A	B	・社会人として身につけていかなければならないTPO・マナー・服装・言葉遣い等について、生徒にさらに自覚を高めるよう継続的に取り組む。 ・大学模擬授業については、招く学校を精選し生徒の進路意識の高揚を図る。
		・家庭クラブとして老人介護施設の訪問や家庭クラブ関係行事への参加をさせる。	A		
	学習習慣を確立し、基礎学力を確実に身につける。	・茨城大学教育学部附属幼稚園との交流などに積極的に参加させる。	A		
	自己の可能性を最大限に生かす進路選択をするように指導する。	・進路に対応した学習指導や課外の実施、面接指導を行う。	A		
3学年	集団の一員としての自覚を持たせ、集団生活のマナーを身につけさせる。	・家庭クラブとして老人介護施設の訪問や家庭クラブ関係行事への参加をさせる。	A	A	・学年後期において、進路先が決定したために、遅刻が多くなった一部生徒の指導に留意する。
		・茨城大学教育学部附属幼稚園との交流などに積極的に参加させる。	A		
	学習習慣を確立し、基礎学力を確実に身につける。	・進路に対応した学習指導や課外の実施、面接指導を行う。	A		
	自己の可能性を最大限に生かす進路選択をするように指導する。	・面接指導や小論文指導などにおいて、全職員の協力を要請する。	A		
3学年	社会人として必要な常識やマナーを身につけさせる。	・面接指導や小論文指導などにおいて、全職員の協力を要請する。	A	A	・学年後期において、進路先が決定したために、遅刻が多くなった一部生徒の指導に留意する。
		目的に合った学力を身につけさせ、知識と思考力を共に養う。	・3年間の経験を生かして、リーダー・模範として活動する。		
	3年間の集大成としての進路実現を、一人一人に達成させる。	・面接指導や小論文指導などにおいて、全職員の協力を要請する。	A		
	特別活動への積極的な参加を促す。	・面接指導や小論文指導などにおいて、全職員の協力を要請する。	A		

評価基準:A(達成できた)、B(だいたい達成できた)、C(達成できなかった)の3段階